

3.11あのととき私は

⑩

後藤博さん(石油ガス工事)

橋に向かう道は通行止めになっていた。タンクを囲む人たちに聞くと、工業用プロパンのタンク

しかし翌25日、30分ほど泣きながら水置換した。しかし翌25日、30分ほど泣きながら水置換した。ほどのところに霜が再び着いたと連絡が入った。4月12日、再び宮城県から連絡が来た。多賀城市話の聞いていて、タンクの中身がプロパンではな

1は入れなかった。どつやってガスを回収するか。後藤さんは周辺をグルグル歩きながら方法を考えた。「100ト

残っているらしく、処理

に困っているようだった。後藤さんは大気放出を指示した。担当者と電話

かかった。液を抜き取らな海の干満に合わせ、車体の2分の1〜3分の1

川岸に引っ張り上げてから液回収、川に浸か

工業用タンク横転 路上に回収策模索

見過ごせず処置指示

砂押川にローリーガス満タン回収策模索

れきの中から水道ホース号を交換し、日に4〜5回見つけたので、それを回収ガス量の確認の報告

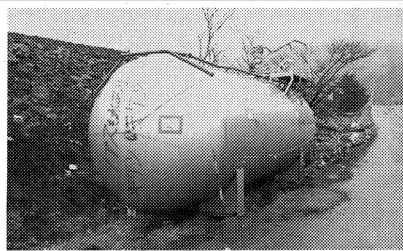
ろまでトラックで移動し、残ガス回収ローリーに再移送」移動式製造

カッターで口を払ってドレンノズルに差し込んだ。

7ト車でタンクは満タン。近くを高架橋が横断

設備で複数の500kg容器に移送して回収「残

水置換した後の工業用プロパンのタンク



だ。高所でガスを放出するため、それを30分延ばし、土手の上の木立に括り付けた。風下に火気が

作業を行い、その次の日液の抜き取り作業を行った。臭い盛川の水をポンプで

の方法を真消防課に提案した。

(続く)